

首都機能バックアップに関する検討会議について

副首都推進局

目的・メンバー

目的

- 副首都として首都機能バックアップに必要な仕組みや体制等を明らかにすることを目的に、首都機能の移行が必要となるような災害や被害想定、副首都として担う機能やそのために必要な施設などについて検討

メンバー

氏名	職名	専門分野等
稲継 裕昭	早稲田大学教授	公共政策
指田 朝久	東京海上ディーアール（株）主幹研究員	B C P
土屋 貴裕	京都外国語大学教授	危機事象全般

※ 必要に応じて、別途助言をいただくための有識者等を招へい

現時点で想定している検討項目

論点1

首都機能バックアップが必要となるような条件の整理

- 災害の種類（類型、程度、期間を含む）
- 被害想定（具体的な被害の状況、生じる影響の確認）
- 首都機能の状況（複数事象の発生を想定したケースを含む）
- 首都機能の移行が必要な状況とは何か
- 移行期間（災害の内容により異なる）

論点2

首都機能バックアップが必要な首都中枢機能の内容や実施方法などに関する検討

- 移行が必要な首都機能（特に行政中枢機能）の内容とその優先順位
- 実施方法（指揮命令系統、人の移動の有無（移動方法を含む）、段階的移行（代替拠点との役割分担を含む）・帰還 など）
- 受入れのために必要となる環境、条件（人、施設（オフィス、宿泊所）、通信・システム・データ、法整備 など）
- タイムライン
- 大阪が持つポテンシャル・適性

論点3

国の連携・協力を要する事項や大阪に必要な事項に関する検討

- 非常時を見据えた平時からの運用（ホットスタンバイ、訓練 など）
- 国との連携・協力が必要となる事項（情報共有、予算措置、法整備 など）
- 大阪に不足しているもの（例：政府システムのバックアップデータ など）

スケジュール

第1回

1. 検討会の趣旨、進め方の説明
2. 検討内容の全体構成の説明、論点整理・確認
3. 災害の種類（類型、程度、期間を含む）
4. 被害想定（具体的な被害の状況、生じる影響の確認）

第2回

条件整理 （自然災害系）

1. 首都機能の状況（複数事象の発生を想定したケース（自然災害系×自然災害系）を含む）
2. 首都機能の移行が必要な状況とは何か
3. 移行期間（災害の内容により異なる）

第3回

条件整理 （自然災害系以外）

1. 首都機能の状況（複数事象の発生を想定したケース（自然災害系以外×自然災害系以外、自然災害系×自然災害系以外）を含む）
2. 首都機能の移行が必要な状況とは何か
3. 移行期間（災害の内容により異なる）

第4回～第6回（想定）

1. 移行が必要な首都機能の内容と優先順位
2. 実施方法
3. 受け入れのために必要となる環境、条件
4. タイムライン
5. 大阪が持つポテンシャル・適性
6. 非常時を見据えた平時からの運用
7. 国との連携・協力が必要となる事項
8. 大阪に不足しているもの

令和8年7月～11月頃（月1回、各回2時間程度）

その後、副首都推進局において取りまとめを行い、国への働きかけ等に活用